

## ケミカルエンジニアリング・カフェを終えて

化学工学会関東支部学生会 奥 大毅

2015年1月24日東京農工大学小金井キャンパスにて第二回となるケミカルエンジニアリング・カフェが開催された。本企画の目的は、企業を引退したシニアケミカルエンジニアと化学工学を専攻とする大学生、大学院生の交流によってシニアケミカルエンジニアの経験を学生が化学工学を学ぶ動機づけにするというものである。

第一回ケミカルエンジニアリング・カフェは2012年12月に工学院大学の学生を対象に開催された。第二回となる今回はより多くの大学から学生を集めるために化学工学会 SCE・Net の山崎氏から東京農工大学、亀山秀雄教授を通して化学工学会関東支部学生会に声が掛かり、共催が実現した。関東支部学生会とは、首都圏10大学の化学工学専攻の学生が運営する学術団体で、ポスター大会やワークショップなどの企画を通して他大学の研究状況や企業の現場を知り、視野を広げることを目的としている。また、他大学の学生や OBOG と交流することで研究や就職などの情報交換も狙いの一つとしている。

参加者は、SCE・Net から9名、教員2名そして都内8大学から35名の学生（博士課程1名、修士課程28名、学部4年生4名、学部3年生2名）の計46名となり、幅広い大学から学生を集めることで第一回からの規模拡大に成功した。

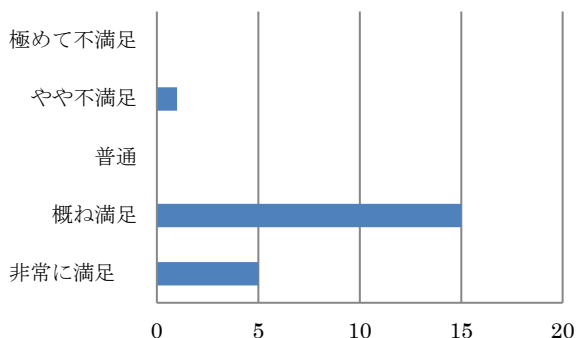
プログラムは、まずシニアケミカルエンジニア4名による30分の講演および10分のショートスピーチ。続いてパネルディスカッション、懇親会という三部構成とした。講演時間を30分としたのは、時間を短くする分、講演数を多くすることで様々な業種での経験談を聞いてもらい、学生により多くの興味を持たせる。そして、その興味をパネルディスカッションや懇親会での会話の種にしてもらいより交流を深めて高い理解度が得られると考えた。

講演に先立ち、SCE・Net の山崎氏から活動の趣旨の説明があった。講演のテーマは総合化学メーカー、エンジニアリング企業、素材メーカーの3つの業種で働き抜いた経験を、それぞれ山本彊氏、川瀬健雄氏、中尾眞氏に、ショートスピーチでは小林浩之氏に自身の化学工学の経験談をお話し頂いた。講演は、それぞれの業種で入社から定年まで職務を全うする中、何を考え行動をしてきたか、そしてその中に見える化学工学の強み弱みについてであった。アンケートでは、大半の学生が「講演が面白かった」、「社会で活躍してきたいろいろな方の経験談を聞いて良かった」と答えていて、学生の求めるものに答えることができ、狙いが的中したものと考えられる。また、アンケートでは山本彊氏の「置かれた場所で咲く」という言葉が強く印象に残ったというコメントもあった。学生は就職活動の中で社会経験者から情報を集めることができるが、どうしても歳の近い若手社員の情報が多くなりがちで、今回のような人生観を交えたお話を聞く機会は滅多に無い。そのため、講演者自身の経験談からそれを踏まえた人生観にまで話が及んでいたことも講演の評価が高かった理由の一つであると考えられる。

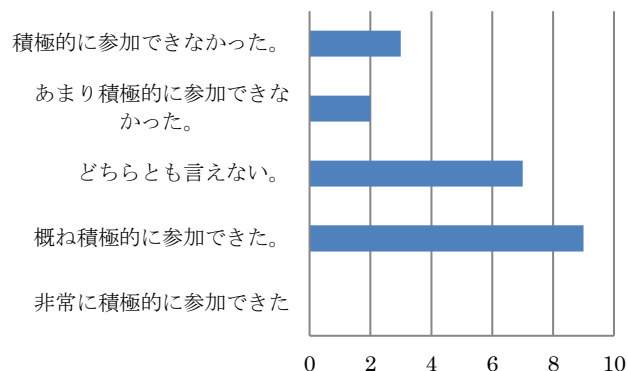
パネルディスカッションでは、関東支部学生会の奥が司会となって、事前に関東支部学生会の学生から挙げた質問の内、特に関心の高かった「化学工学がどう活かせるか」「もし今入社時に戻れるとしたらどのような仕事か」というテーマで議論を行った。同じ質問を多数の社会経験者に問うという形式は、立場の違いによって答えが異なっていて学生の関心を惹いていた。また、「やり直せるとしてもモノづくりがしたい」（神田稔久氏）など熱いコメントもあり、学生に化学工学を学ぶ意欲を湧かせたのではないだろうか。しかし、より多くの回答を得たことで逆に学生の発言する時間が少なくなってしまう、アンケートでも「学生にもっと発言機会を与えるべき」との指摘が出ることもあった。

懇親会では、机を4つに分けて立食形式で行った。開始直後こそ学生と社会経験者の間に距離があったが、学生の発言機会が少なかったことや、お酒の助力もあってその距離はすぐに縮まり、次々と社会経験者に話を聞きに行く学生も見受けられた。アンケートでも、「懇親会の時間をもっと長くする」に意見が集まっていることから会が盛り上がりを見せたことがわかる。一方で、懇親会に積極的に参加できなかった学生もいたようで、予め決まったグループで会話を促すなど、交流のしやすい形式に変えることも今後望まれる。

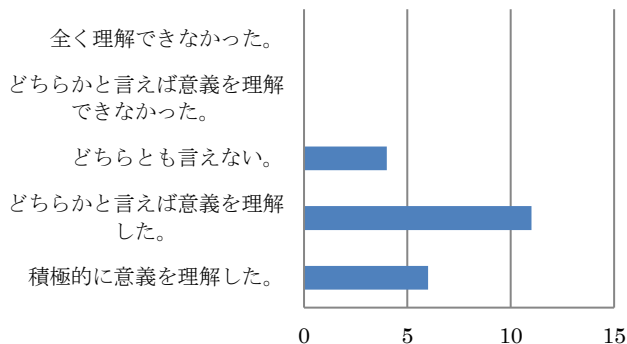
(1) ケミカルエンジニアリング・カフェに参加して満足していますか？



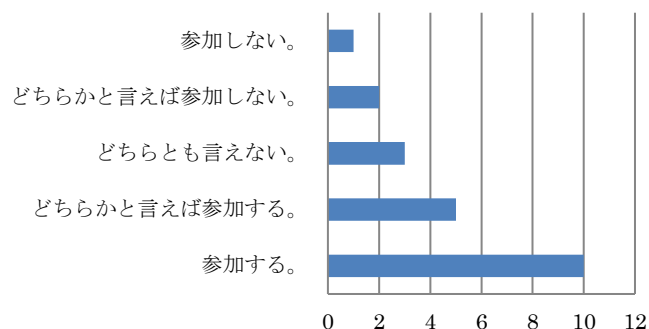
(3) 懇談会に積極的に参加しましたか？



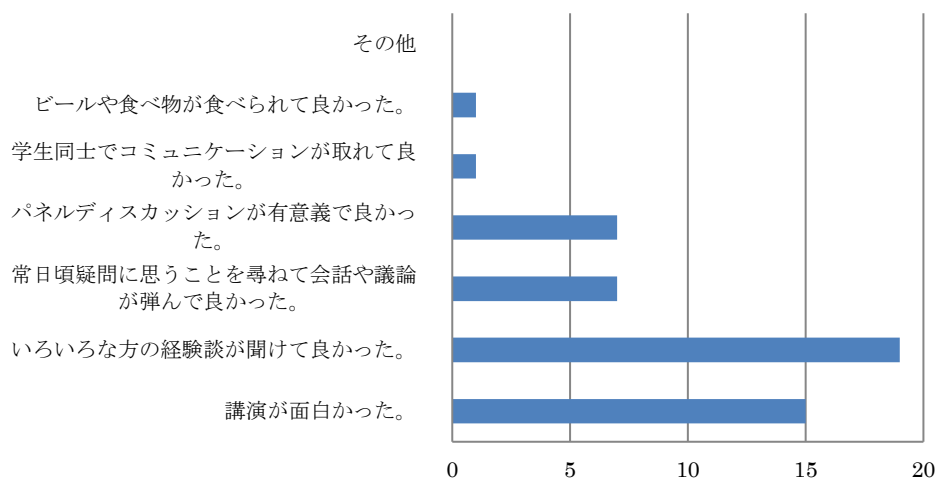
(2) 化学工学を学ぶ意義を理解しましたか？



(4) ケミカルエンジニアリング・カフェに今後も参加しますか？



(5) 満足と答えた理由は？



(6) ケミカルエンジニアリング・カフェの改善すべきことは何か？

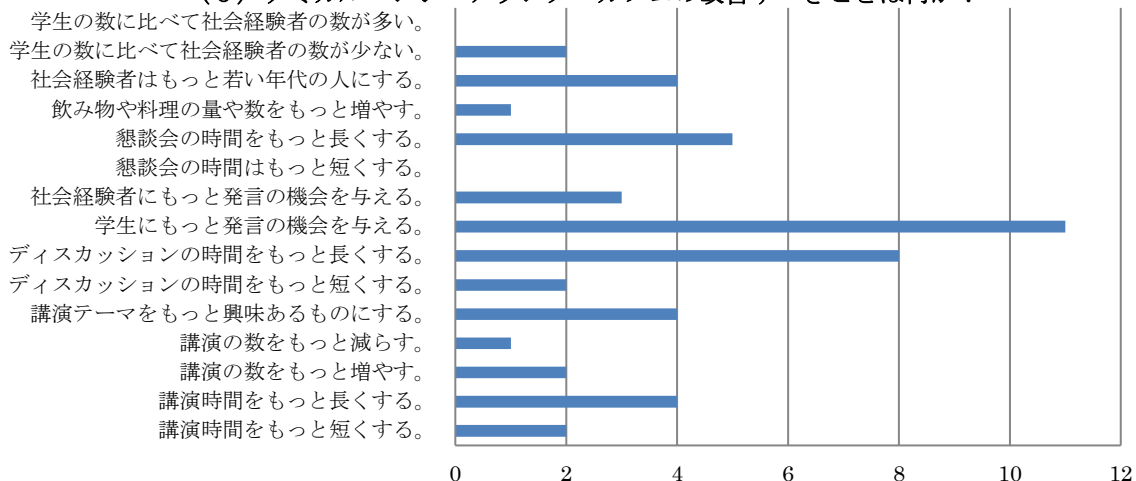


図1 ケミカルエンジニアリング・カフェに参加した学生のアンケート集計結果

全体として今回のケミカルエンジニアリング・カフェに対して非常に満足、概ね満足の回答が多く、次回以降の参加に積極的な意見も多かったことから、企画自体は成功を収めたと言える。この成功の最大の要因は学生が持つ問いに対して想像しているもの以上の答えが返ってきたことにある。参加した多くの学生が得たかったものは、就職活動に有利になる情報、化学工学技術者とはどのような仕事をしているのかの二つである。それに対して、化学工学技術者の仕事内容を十分に答えた上で、化学工学の知識のみではなく全体を俯瞰することのできる力を活かせば様々な形で仕事を行うことができるとの答えが返ってきた。就職活動および就職を控える学生は化学工学の知識を活かした専門的な仕事の中から進路選択しがちであるが、今回の講演により化学工学の考え方は専門的な仕事だけではなく、様々な場面で活用できることを教えられた。学生からすると定年まで働き抜いた方からのお話は大きな説得力を持つように感じ、多くの学生が今後化学工学を学ぶ意欲が増すことに留まらず、人生の選択肢を広げることができたと考える。

関東支部学生会では他大学との連携や OB・OG との交流により、就職活動に有利になる情報を学生が得られるがそれはすべて化学工学系の仕事で対してである。今回の企画を実践して、就職をより多角的に捉えて企画を行う必要性を感じた。そして、SCE・Net との共催により学生の力だけでは得られない化学工学の本質的な考え方や進路選択の考え方を教えて貰うことは大きなメリットと考え、今後も定期的にこの企画を続けることができればと思う。

最後に、私個人として今後どのような企画が良いか簡単に述べる。シニアケミカルエンジニアとの交流は学生にとってとても有用であるが、学生としてはやはり敷居が高く感じ委縮してしまう。さらに、講演会やパネルディスカッションのように形式張った企画がさらに学生の委縮を招いているように感じた。今後は、何名かによる講演の後に質疑を含めた懇親会をメインとして行う形式（第一回に似た形式）や、思い切って御食事会やお悩み相談会などのラフな会にしてみてもどうか。

本企画を開催するにあたり、化学工学会および SCE・Net から費用を東京農工大学亀山秀雄教授から宣伝等の強大なサポートを頂いた。ここに記してお礼を申し上げる。



写真1 懇親会の参加者で最後に記念撮影



写真2 パネルディスカッションの一コマ